速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報
ＪＲ総連 東北地方太平洋沖地震 緊急対策本部情報
2011年３月22日
17：00発行　№14
発行：全日本鉄道労働組合総連合会

頑張ろう！被災者のみなさん。

田城 郁参議院議員が現地視察

このたびの災害で亡くなられた数多くの方々のご冥福をお祈りいたします。

３月 19 日朝、被災地に向けて出発しました。「先ずは現場に入れ」というのが組合時代に私が学んだモットーです。もちろん仙台地本と盛岡地本の仲間が受入れ態勢を整えてくれたことから、現場に駆けつけることが実現できました。

東北道ではあちこちで道路の補修をしていましたが、指定の時速 50 キロでの走行が可能でした。被災地に派遣される自衛隊やレスキュー隊の皆さんの車両にも何度も出会いました。頭が下がります。

仙台ではガソリンや灯油を求める長蛇の列はあるものの、比較的落ち着きを取り戻していました。しかし仙台港に行くと、津波の威力をまざまざと感じました。道路の中央分離帯にＪＲコンテナが散乱しており、港で積み荷を待っていた車が何台も折り重なっています。

翌日、昼過ぎに釜石に到着。釜石で働く仲間の顔をみて、思わず抱き合い無事を喜びました。市内は惨憺たる状態で、「これが私の知っている釜石なのか！」と思わず口にしました。沿岸部のＪＲ山田線が影も形もなくなっているのにも驚きました。町の人々にとって「鉄道は、東京に直結している安心感」があるとのことです。鉄道の再生は被災した人々の心の支えにもなります。山田線の再建もこれからの大事な仕事です。

釜石を後に、海岸沿いの国道 45 号線を北上、町長が亡くなられた大槌町の避難所に物資を届けに行きました。津波の後に火災が発生した大槌町は、まだ建物が燻って焦げ臭いにおいが、街中を覆っています。

避難所で物資を渡すと対策本部の方が「とにかく情報がほしい。電源もテレビも電話もなく、不安感が増すばかり」という必死の思いを語りました。

また被災者の弱みにつけ込む犯罪の話も聞きました。報道はされていないものの、防犯対策も必要です。

被災地の人々が一刻も早く仕事に復帰できることを祈りながら、山のような宿題を抱えて被災地をあとにしました。